

かいのき児童クラブ便り



あ～おもしろかった。またあした！！



H29年度 夏号

H29.8.28



〔避難訓練しました。〕

岡山市消防局 北消防署 番長出張所の消防士さんが4名かいのきの避難訓練に来てくださいました。まず、かいのきのキッチンから火が出たという設定でグラウンドのほうへ避難し、指導していただきました。点呼などは、うまくできたのですが訓練という気持ちからおしゃべりが出てしまい『おはしも』の確認をしました。その後水消火器で消火訓練をし、室内の火災報知器やケガ・熱中症についての対策などを教えていただきました。また質問コーナーでは「食事中出動命令が出たらどうするの？」や 胸のバッジの星の数の意味を聞きました。なんにでも気さくに答えてくださいました。最後には、消防車を詳しく見せてくださり、酸素マスクや防火服も着せていただきました。消防士さんの苦勞も少し知ることができたような気がしました。

【ケンカから気付くこと】

泥の塊を投げて壊して遊ぶ2人。

そのうちなぜかつかみ合いのケンカ

に発展！！話を聞きましたが聞くだけでは、よくわかりません。紙とペンを持ち出し泣いた(ケンカになった)ところから経過を逆たどりしていきました。(逆にたどるとなぜか大体の子が冷静に話をすることができます。)確認していくと遊びのつもりの土の投げ合いが、エスカレートしたらしいのです。それも泣いている子は、どうして相手が怒り出したのか？？？です。そこから話を深めていくと「おめえが土投げるからじゃ！！」「○○だって投げたがん！！足の先に当たったがん！！」「だからあ～。わざと当たらんように足なんじゃが！なのにおめえが本気でなげるから…目に入ったらどうするんじゃ！！だから怒ったんじゃ。」そこで泣いていた子は、「はっ！！」とした感じです。どこで思いがすれ違ったのか？最後にケンカの経過を一緒に確認しました。そこで初めて、お互い思いが伝わっていなかったことや、相手の考えが自分と違ってことに気が付いたようでした。学年により考えに違いがあることも伝えました。大きい子が小さい子に教える大切さにも気づいたようでした。

また違う日には、遊ぶ約束を忘れていた子と覚えていた子が『裏切った。無視した。』とケンカをしています。間に入り「何が、どしたん？」に 発した次の一言が「約束したがん！！」でした。それを聞けば相手も思い出したようでした。早くそう言えば大きなケンカになることもなかったことが分かりお互い苦笑いしました。自分の思いが相手に伝わり、相手の思いも分かれば『ごめんね！』がなくてもうまく関係が修復されます。それを重ねるとより一層深い関係になっているようにも感じます。その後は、その子たちが「こうじゃねえん？」ともめごとの仲裁に入ってくれていることもあります。学校ではとりあえずの「ごめんね。」「いいよ。」ですが、実際納得いくまで話せば今は、許せなくても「わかった。」となります。話すことで言い方が問題だったり、言葉が足りなかったり、誤解が生じていたことも学びます。嫌な相手をスルーする力も必要ですが、今の時期にしっかりとケンカをして自分の気持ち相手の気持ちを考えることがコミュニケーション力につながるのでは、ないかと思えます。

(高橋)

”音楽フェス”へようこそ



「こんなことができるよ～」と蚊取り線香の穴が開いた缶のふたに木の枝をさし、もう1本の枝で、トントコ トコトコと軽快に缶のふたを叩く1年のSくん。なかなかの指さばきです。「わあ、楽しい！セッションしよう」と一緒にトコトコ叩きました。すると「あ、あれもできる」「これもできるよ」と壊れた大きなふるいの枠やままごとに使っているフライパンやボール、空き缶等を持ってきて木の下に並べるSくん。叩いていろいろな音を楽しみ始めました。周りの子ども達にも楽しんでほしいと指導員もドンドンドコドコ わざとテンポや音量をあげていくと「何

やっとな？」と集まってくる子ども達。「ぼくもやる！かいのきでドラムができるなんて思わなかった」と保育園でドラムをやっていたKくん。枝を拾ってきてドラムのスティックに。「そうだ、マラカス作ろう」とペットボトルに砂や小枝を入れる女の子たち。

一緒にセッションしていく中で、「マラカスふりすぎたらドラムの音が目立たなくなる。手首を叩いたらいいが」「1・2・3・4・5・6の6で叩いたらいいが」「リズムを考えなきゃあね」「楽譜を書かないと忘れるよ」「曲の最初は弱くして、だんだん強くして、最後はだんだん弱くしたらいいが」オオオーッ！！音楽的になってきた！どんどん出てくるアイデア。ここまでくるとみんなにも聴いてもらいたくなります。「発表したいね」ともちかけると「やろう、やろう！」「そうだ、チケット作らんと」「ポスターも貼ろうや」「じゃあチケット作る人とポスター作る人とに分かれよう」と自分達で次々と準備。ポスターは「音楽フェスへようこそ」と書かれ、ちゃんと日時、会場も入っています。何とチケットにはミシン目も！！国語のドリルにポスターの書き方の問題がありました。まさに生きた学習！

部屋でブロックをしていた子にも「ロックバンドをやるよ」と女の子が誘い、さらに2名仲間をゲット。2日後に6名で音楽フェスを開きました。当日は「ぜひ来てね！」とチケットを渡すと、10人ほど会場に集まってくれました。司会は女の子2名。ほうきのエアギターも登場し、思い思いに演奏。それを興味深く聴いてくれる仲間たち。終わった後は「楽しかったあ！」「本当に来てくれてよかったよ～」とはじける笑顔。お弁当前にはみんなの前で勇気を出して「来てくれてありがとう」とお礼を言ったSくん。集まってくれるかどうか、ちょっぴり不安もあったのでしょうか。

一緒に演奏した仲間が、午後からはキーボードで第2弾を開催。仲間と協力してやり終えた達成感や満足感、次への意欲につながります。また聴いてくれる仲間がいることは自信や安心感につながるのではないでしょうか。
(文責 土田)

お礼：今期の夏もスイカやとうもろこしなど差し入れをいただきました。とうも

ろこしは、皮をむいたことのなかった子もいました。おいしい、いい体験をありがとうございました。

保育報告会は、9月9日です。このお便りの後日談などを写真とともに紹介したいと思っています。ぜひご参加ください。



かいのき児童クラブ便り



子どもたちの豊かな学びのため



H29年度 夏 第2号

H29. 9. 7

自分たちでつくりあげた劇「シンデレラ」

劇は理屈抜きに楽しい！夏休みの間中、トイレの前の壁に隠れて集まっていたのは劇の仲間です。音楽フェスの後、有志でシンデレラの劇をすることになり、台本は指導員が以前作ったものを使用しましたが、ほとんど自分たちで進めていきました。台本のストーリーは、現代的に少し変えてあり、お城の舞踏会の最中に敵が「王子をやっつけろ！」と攻めてきて、それをシンデレラが勇ましくやっつけ「かっこいい姫だった。このくつに合う人をさがしてくれ」という内容になっています。

<子どもならではのアイデア> 高学年が中心になって役割を考え、監督、デザイナー、小道具責任者、音楽責任者、飾り責任者、ドクター（ディレクター？）とノートに書き出し、役割を分担。

劇の配役の希望を出し合い、希望が重なったシンデレラを決めるために「わたしだってお城にいきたいのに・・・と感情をこめて言ってみて」と監督がオーディションを開催！役のやり手がいなければチラシを書いて募集し、仲間が広がっていきます。劇はしないけれど、道具係、音楽係ならするという子も集まりました。

かぼちゃの馬車を段ボールで作ってくれたIさん。みんなで大喜びし、ますますモチベーションがアップ。ガラスの靴は学校の上靴にラップを巻き、水色のマジックで色付けという斬新なアイデア！シンデレラのドレスはMさんが家から持ってきてくれ、お姉さんたちのドレスは大きなポリ袋で手作りです。敵役のSくんはすでに遊びの中で作っていた剣とたてを有効利用。本番は舞台も必要だとジョイントマットで作りました。

<劇のおもしろさを満喫> 自分の役になりきってことばのやりとりを楽しむだけでなく、時には「シンデレラ、お前は留守番よ！オーッ、ホホホ！」と順番にセンスを片手に意地悪なおかあさんになりきってやってみる。なんともわくわくする瞬間です。イメージもどンドン膨らみ、陰の存在であるナレーターが、バレエのような振り付けで登場したり、舞踏会の場面では観ている人を誘って一緒に踊ることになったり…。ただ、学校とは違い、休みもバラバラで全員がなかなか集まれない。またみんなが遊んでいる中で、練習場所も十分確保できない状態での練習。もどかしい思いもしながら、揃ったメンバーでダンスの練習をしたり、音楽を決めたり…できることをしてきました。やろうとする意欲が夏休みの間中途切れなかったのは、それだけ仲間と一緒に劇の面白さを味わうことができたからではないでしょうか。本番間近になると『わたしたちは本番までがんばってきました。少し忘れてしまいがちのところがあるかもしれませんがきてください』と一枚ずつ手書きのチケットを全員のロッカーに配布。子どもたちの思いが伝わってきます。本番はかいのきオリンピックの日。子どもたちは「最初は緊張したけど、成功してよかった」「仲が深まった」と達成感や満足感を味わいました。

<持てる力を最大限に発揮> 登場人物になりきるだけでなく、道具を工夫して作る、音楽やダンスを考え練習する、場面の雰囲気を集団で表現する等々、さまざまなことが必要になり、自分たちの持てる力を最大限に発揮した子どもたち。一緒に劇をつくりあげていく中でお互いのことを知り、仲間関係を深めることができたのではないのでしょうか。

(文責 土田)